

学校力向上に関する総合実践事業の推進 ～指定地域全体で取り組む重点的な取組内容の実践～

石狩市立石狩中学校
学 級 数 5
(校長 坂田 育子)

I はじめに

本校は、令和2年度から学校力向上に関する総合実践事業の中核校の指定を受けた。2年目となる今年度、石狩市立石狩八幡小学校と石狩市立生振小学校を含めた指定地域全体で重点的に取り組む項目のうち、具体的な取組内容として「小学校の教科担任制」、「安心して学ぶことができる居場所・集団づくり」、「1人1台端末の日常的な活用」を柱に取組を推進している。

II 実践の内容

1 中学校教員による小学校（指定校）における教科担任制の実施

指定校の学級担任や教務主任と連携し、専科教員による指導体制を整備するとともに、指導の重点や取組について、共通理解を図りながら、教科担任制を実施している。

(1) 専科指導体制



(2) 専科指導の重点

- ① 小・中学校の学びのつながりの検証と改善
- ② 教科の専門性を生かした指導による児童の学習意欲の向上
- ③ 中学校の学びのスタンダードを踏まえた授業実践



【小学校第3学年外国語活動の授業】

(3) 専科指導教員の取組

- ① 振り返りシートの検証による授業改善
- ② 外国語におけるルーブリック評価とパフォーマンステスト等を活用した学習指導
- ③ 身に付いた資質・能力の検証による授業改善
- ④ 1人1台の端末や導入ソフトを活用した学習指導
- ⑤ オンライン学習や両小学校の交流学習の実施

2 安心して学ぶことができる居場所・集団づくり

本校の学習に取り組む際の基本的なルールを示した「学習の5原則」を踏まえ、指定校である両小学校との学びのつながりを重視した「石狩中学校学びのスタンダード」を作成した。また、本校の学びについて分かりやすく示した「石狩中学校スタディガイド」を作成し、両小学校と共有化を図っている。

(1) 石狩中学校学びのスタンダード

「学びのスタンダード」とは、学習規律や家庭学習の取組について、指定校の両小学校との学びのつながりを重視して作成したものである。

内容については、9年間を通したよりよい学習環境づくりに向けて、学習態度について共通理解を図り、基本的な内容や方向性について、本校の学習に取り組む際の基本的なルールを基に作成した。



【集中できる学習環境整備】

学 習 規 律			
1 姿勢	「立腰」	「注視」	「傾聴」
2 学習過程	①課題→②見通し→③自分の考え→④協議→⑤まとめと振り返り		
3 話し方（説明・話し合いの仕方）・聞き方のポイント	・学年ごとに整理し明確化した話し方、聞き方		
4 学習のスタイル	・授業前後、授業中、家庭学習において目標とする取組方法を明確化		

家 庭 学 習	
1 「夢貯金」の取組	・キャリア学習と連動し学習する目的の明確化 ・家庭学習時間の記録化
2 週末課題の取組	・生徒自身が設定した授業内容に関する課題のレポート作成



【写真や図を用いた学習規律や家庭学習のポイントの説明】



【キャリア学習と連動した家庭学習】

(2) 石狩中学校スタディガイド

「スタディガイド」とは、各教科の題材一覧表、持ち物、評価の観点と評価方法、授業の流れ、家庭学習について説明した資料である。

全生徒に配付し、4月の学級活動や教科のオリエンテーション時に使用するとともに、各教科の単元の見通しや振り返りに活用している。



○ 外国語科では、家庭学習の取り組み方として、単語練習、まとめ学習ノートの例を分かりやすく解説している。

3 1人1台端末の日常的な活用

校内研修を通して、端末の使用上のルールについて共通理解を図ったり、活用方法や実践例について情報を共有したりしながら、授業改善に努めている。

(1) 「個別最適な学び」につながる実践

- ・ディクテーションや音声ガイドを使用した音読練習（外国語科）
- ・Microsoft Teams を使用した学習課題の配付と回収（長期休業中）
- ・プレゼンテーションによる調査学習のまとめと発表（総合的な学習の時間）
- ・タブレットドリルの活用（朝学習、長期休業中）

(2) 「協働的な学び」につながる実践

- ・石狩市立厚田学園後期課程との合同オンライン授業（理科）
- ・電子黒板のホワイトボード機能の活用（国語科、道徳科）
- ・共同作業によるプレゼンテーションの作成と発表（生徒会活動）



【1人1台端末の日常的な活用】



【合同オンライン授業】

Ⅲ 成果と課題

- 昨年度、指定校の第5、6学年の児童を対象に、専科指導を行った外国語の授業についてアンケートを実施したところ、97%の児童が「授業が楽しい」と肯定的に回答するなど、学習意欲の向上に成果が表れていると考えられる。
- 小学校の学習規律とのつながりを重点とした「学びのスタンダード」を作成したことにより、中学校に入学したばかりの第1学年の生徒も円滑に中学校の学習に取り組むことができた。
- 専科指導担当の教員が小中連携のコーディネーターとしての役割を担い、小・中学校間で子どもたちの様子や学習活動の状況の情報交流を活発にできたことにより、教職員間の連携の意識が向上した。
- 1人1台端末の効果的な活用に向けて、授業で一層の活用を図ったり、生徒が自ら活用したりできるよう、実践の積み重ねや活用方法の交流などを進める必要がある。
- 小学校の教科担任制と重点取組の成果の発信方法を工夫して、市内の小・中学校に普及させる必要がある。